

総務委員会

I. 活動目標
会員へのサービス向上のためのシステムや企画の立案を通して、会員の円滑な学会活動、学術活動を推進し、学会全体の活動性を向上させる。
II. 活動計画
1. 各種細則の修正（年齢、任期など） 2. 学会所有著作物に対する使用に関するシステム構築と許認可 3. 日本医学会、厚労省などの諸団体からの周知依頼やお知らせなどの学会員への周知 4. 役員や評議員（新規、更新）申請に関わる疑義への対応
III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）
0回

委員会あり方検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標
各委員会の事業計画および活動報告、委員交代および募集状況を掌握し、その活動を支援する。委員などのCOI確認評価を行う。
II. 活動計画
1 各委員会が提出する、修正事業計画（4月の年度初め：前年度提出された事業計画を修正する場合）、次年度事業計画（秋：予算審議時期）および活動中間報告（秋）、活動年間報告（12月から翌年1月：年報用）の内容を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。 2 各委員会の委員交代および新規委員募集の有無を掌握し、必要に応じたフィードバックを行う。
III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）
4回

支部あり方検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標
支部の状況・課題を共有し、活性化に向けた方策をまとめる。
II. 活動計画
各支部より状況・課題を提出する。
III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）
1回

学術集会あり方検討委員会

I. 活動目標
統一された基準にもとづく学術集会の運営 学術集会の経済的安定 支部学術集会の活性化
II. 活動計画
学術集会運営要綱の整備 支部学術集会運営要綱の整備
III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）
Web会議 12回 コア会議 24回

集中治療医学会基盤システム構築委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標
基盤システムと連携する他のアプリケーションの完成、特に選挙機能についての完成を目標にする。また近年問題になっているセキュリティの強化を一層行っていく。具体的にはWAFを導入する。
II. 活動計画
各種システムのアップデートを行います。
III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）
全体会議として年に2回程度 事務局を含めた小会議は、本年度同様に、週に1回以上を行う予定である。

ブランディング委員会

I. 活動目標

1. 集中治療医学会のブランド（影響力とイメージ）を向上する。
2. 学術集会・学会イベント・学会資料を目標と評価を持って発信する。
3. 集中治療医学会の認知度を国内・国外において向上し、求心力を高める。

II. 活動計画

- ① 集中治療医学会の情報発信の根幹として継続したHPの改善を行う。
 - ・新規HP改善活動（内容の整理・新規コンテンツ掲載）。
 - ・英語ページの継続した改善。
 - ・評価指標を用いたHP構成の改善。
- ② SNS発信体制の強化および目標を持った発信活動を行う。
 - ・SNSWGの発信体制を再構築し、学会主旨・規約に則った発信活動を活性化する。
 - ・評価指標を明確化し、対策を実施することで、学会のSNS発信による影響力を向上する。
 - ・学会活動・学術集会・学会企画の現場からのSNS発信活動を活発化する。
 - ・動画・新規コンテンツを積極的に取り入れ、魅力的・効果的な情報発信を行う。
- ③ 各委員会と連携して、委員会ページのアップデートを行う。
 - ・委員会ページ作成および活動のSNS発信のフローを整備する。
- ④ 定期的なインタビュー動画作成とHP掲載を行う。
 - ・「学術賞受賞者のインタビュー」「JINC 採択論文インタビュー」、その他。
- ⑤ 集中治療の日に向けた企画立案をする。
 - ・予算負担をかけない2026年以降の企画を検討・企画に取り掛かる。
- ⑦ 学術集会・支部学術集会・セミナー等の開催記事を定期的に行う。
 - ・学術集会・支部学術集会・セミナーの開催概要のレポート報告を定期的に行い、支部学術集会のレガシーを蓄積する。
- ⑧ その他、必要なブランディング活動。
 - ・支援を必要とする学会活動において、分け隔てなく積極的に活動する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

開催は、月1回を定期開催とする。必要な場合には臨時開催を適宜行う。

国際交流委員会

I. 活動目標

1. 協定アジア諸国[KSCCM、TSCCM(Thai)、TSCCM/TSECCM(Taiwan)]と連携して、集中治療医学の進歩と発展を追求するとともに、協定アジア諸国間の集中治療医の相互理解を深める。
2. 多国間交流の起点として、多国間シンポジウムを企画、実行する。
3. ESICM、SCCM、ANZICSなどの欧米集中治療学会とビジネスMeetingを行う。
4. Euro-Japanの継続を検討する。
5. Joint congressとしてKSCCM TSCCM/TSECCM(Taiwan)を2026年の各学会の学術集会で開催する。
6. 国際学術団体からの学術的な情報を学会員に情報を提供する。
7. WFICCに向けて学会の国際化を図る
8. 物価高、円安、渡航費高騰を考慮し、持続可能な国際交流の実行を検討する。

II. 活動計画

1. SCCM/ESICM/KSCCM/TSCCMとの定期的なビジネスミーティング開催の準備をする。
議題の準備、お土産の準備、参加者の確認
2. WFICC国内開催に向けて、学術集会の国際化や各国の若手Raising starの発掘を試みる。
3. 多国間シンポジウムとしてASIA Day（韓国、台湾、シンガポール、タイ）の開催を検討する。
4. Euro-Japanの開催を検討する。
5. 国際交流に関するホームページ掲載内容をアップデートする。
6. 物価高、円安、渡航費高騰を考慮し、持続可能な国際交流の実行を検討する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

クリティカルケアガイドラインシリーズ統括委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

各委員会で多様なガイドラインが作成されているが、一貫性を欠く状況にある。

当会が作成するガイドライン全体の品質・効率・認知度を向上させるため、ガイドライン群をシリーズ化することを目的として委員会活動を行う。

II. 活動計画

【役割】

- ・CQ立案支援と全体俯瞰
- ・公募制度の整備と人材育成
- ・GLの評価方法（AGREEII）に関する周知
- ・GRADE理解者の適正配置
- ・普及戦略の企画と実施
- ・外部査読の機能確保

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

各ガイドラインの立ち上げの会議とプロダクト会議を行う。回数は年度内に発足するガイドライン委員会数による。全ての会議はWebで行う。

集中治療医療体制委員会

I. 活動目標

1. 学会認定集中治療施設調査を実施する。
2. JIPAD事業を推進する（JIPAD事業WG）。
3. 遠隔集中治療ガイドラインを改定する（遠隔集中治療WG）。

II. 活動計画

1. 認定施設調査
 - ・ 認定制度の運用を定め申請の受付を開始する。
 - ・ 認定要件を設定し充実段階評価として調査項目に盛り込む。
 - ・ 報告書を作成し、学会内外に情報開示・共有を行う。
2. JIPAD事業
 - ・ NPO法人ICONと協力して、より精度の高いデータベースをめざす。
 - ・ 引き続きウェブページの充実、データ利用の推進による研究の拡大、DPCデータの取り込みなどの新しい事業に取り組む。
 - ・ 追加項目の収集などVersion Upを行う。
 - ・ 学術集会にてワークショップを企画し、会員にJIPADの参加を促す。
3. 遠隔集中治療
 - ・ 施設調査を用いた遠隔集中治療の実態把握を行う。
 - ・ 遠隔集中治療ガイドラインを改定し、講習コースを策定する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3-5回

社会保険対策委員会

I. 活動目標

令和8年度診療報酬改定へ適切に対応し、令和10年度診療報酬改定への準備を開始する。

II. 活動計画

令和10年度診療報酬改定へ向けた委員会および評議員へのアンケートの実施
本学会からの要望項目および要望方法の検討、理事会への提案
要望書および提案書の作成
関連団体との連携

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

薬事・企画・安全対策委員会

I. 活動目標

1. 集中治療に関連する医療安全問題への対応
2. 集中治療に関連する薬剤・医療機器等の安全情報提供
3. 医療の効率化に向けた領域別タスクシフト推進

II. 活動計画

1. 集中治療に関わる医療安全に関する情報の収集、課題の分析、対策の立案・会員への周知等を行う
2. 集中医療に関連する医薬品、医療機器等に関する情報を収集し、課題があれば分析・検討のうえ、会員に向けて情報を提供する
3. 集中治療領域におけるタスクシフト・シェアの現状を調査し、今後のタスクシフト推進における課題の抽出と方向性について検討する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6

臨床倫理委員会

I. 活動目標

1. 2025年度末に「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言」の改訂版（緩和医療学会を加えた「4学会合同ガイドライン」への改訂）が公開されている見込みである。改訂版ガイドライン公開後の「解説集」作成や関連セミナーなどの企画を行う。
2. 教育講座「集中治療と臨床倫理－倫理的・法的・社会問題（ELSI）への対応」の内容刷新（改訂版ガイドラインの内容を盛り込む。救急・集中治療終末期の緩和ケアに関する講義を加える）。
3. 「集中治療における患者家族のこころのケア講座」の継続、改訂版ガイドラインに連動したアップデート。
4. 改訂版ガイドライン公開後の実態把握調査（ETHICS ICUを仕切り直し、アンケートによる実態調査を行う）。

II. 活動計画

1. 改訂版終末期ガイドライン改訂後の解説集作成。
2. 改訂版終末期ガイドラインの内容を反映させたセミナーとしてコンテンツを見直す。
3. 2026年度もオンデマンド講義＋対面式グループワークでの開催。
4. 3学会の終末期レジストリ(ETHICS ICU)を改訂版ガイドラインに合わせて、新規プロジェクトとして仕切りなおす。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

終末期医療に関するガイドライン改訂委員会

(Ad Hoc/日本集中治療医学会 日本救急医学会 日本循環器学会 日本緩和医療学会 合同)

I. 活動目標
2025年度末に「救急・集中治療における終末期医療に関するガイドライン～3学会からの提言」を日本緩和医療学会を加えた4学会の合同ガイドラインが公開されている見込みである。2026年度は、改訂版ガイドライン公開後に改訂版ガイドラインの解説集の作成や、改訂版ガイドラインを実臨床で活用できるようにするための具体的なワークショップの提案などを行っていく。
II. 活動計画
① 2025年度に公開された改訂版ガイドラインの解説集を作成する。 ② 改訂版ガイドラインを実臨床で活用できるようにするための具体的なワークショップの提案などを行っていく。
III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)
6回

災害時の集中治療検討委員会 (Ad Hoc)

I. 活動目標
1) 「災害時のリバーストリアージ・ICUエスカレーションの考え方」作成 2) 「マスギャザリングイベント等に係る救急・災害医療体制を検討する学術連合体」参画 3) 「災害時のICUにおいて機械的循環補助を使用している患者対応の考え方」作成
II. 活動計画
・ 災害時の、横断的トリアージ (transvertical triage) と縦方向トリアージ (longitudinal triage) の概念について解説資料を作成する。 ・ 「災害時のICUにおいて機械的循環補助を使用している患者対応」について手引き書を作成する。
III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)
委員会打合せ 3回 (オンライン)

臓器提供・臓器移植検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

- 1 多職種からなる地域ドナーコーディネーターチーム養成コースを開発し、地域で臓器移植が発生した際に対応できる体制を整備する。
- 2 「臓器提供を見据えた患者評価・管理と術中管理のためのマニュアル（厚生労働科学特別研究事業）」を普及させる。
- 3 「法的脳死判定マニュアルの改訂を含む臓器提供に係る医療者教育に資する研究（厚生労働科学特別研究事業）」を他学会と連携して行う。
- 4 小児脳死下臓器提供コースを開催する。小児の脳死下臓器提供という特殊性のあるケースに対しても臨床現場を支援し、地域の中で臓器提供の可能性がある事例が発生した際に活躍できるチームの育成を目指す。

II. 活動計画

- ① 地域ドナーコーディネーター養成コースの開発。具体的には下記項目を取り込む。
（臓器提供の現状・臓器提供の適応判断・臓器提供を見据えた患者管理・患者家族ケア/臓器提供の情報共有・臓器提供決断後の患者家族ケア・院内・地域での体制整備）
- ② 厚生労働省、JOT、他学術団体との連携を行いつつ、教育コースを広める。
- ③ 臓器提供、臓器移植に関わる本学会の意見を集約し、公的に発信する。
- ④ 小児脳死下臓器提供コースの開発と開催。具体的には以下項目を盛り込む。
（虐待対応・適応判断・法的脳死判定・患者管理・家族ケア・院内地域体制整備）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

適宜

PICS対策・生活の質改善検討委員会

I. 活動目標

PICS対策に関する研究成果を基盤として、診療報酬制度を含む政策提言および制度化へつなげる一体的推進体制を構築する。特に、再入院率や医療費への影響を含む社会的インパクトを定量的に示し、政策決定に資するエビデンス創出を加速するとともに、半年以内に介入効果に関する成果の可視化を達成する。

II. 活動計画

- 重点5研究プロジェクト（外来介入、医療費・再入院評価、せん妄バンドル、早期リハ、家族心理介入）の推進
- ・介入効果の解析とエビデンス創出（臨床研究の質向上、アウトカム再設計を含む）
 - ・短報・委員会報告・英語論文としての成果発信
 - ・DPC等データ連携による医療経済評価の強化
 - ・外部専門家との連携および役割分担・オーサーシップの整理
 - ・診療報酬改定に向けた提言案の作成と学会内申請準備
 - ・委員会開催による進捗管理および新規研究テーマの検討

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回程度（コアメンバー会議3回、本委員会3回想定）いずれもweb会議

Rapid Response System検討委員会

I. 活動目標
国内のRRSの実態把握の継続と普及活動 院内心停止の実態把握・検討・課題抽出 RRS運用の質的評価の指針作成
II. 活動計画
1. RRS運用指針: 小児版等の改訂作業 2. 院内心停止とRRSレジストリのAHAとの連携および項目改定 3. RRSと院内心停止のレジストリデータの整理とニュースレターによる共有 4. RRSと院内心停止のレジストリによる研究推進 5. RRS全国調査（継続） 6. RRS出動スタッフ養成コースの実施 7. RRS運用の質的評価の指針作成
III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）
6回

ECMOプロジェクト委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標
日本の呼吸ECMOの現状調査結果も基づき、呼吸ECMOのセンター化に向けたPosition Paper（調査報告書）を作成 呼吸ECMOレジストリーの運営
II. 活動計画
2026年9月 アンケートの調査報告書を学会誌に投稿 2026年10月～3月まで 呼吸ECMOレジストリー構築に向けて協議（ARDSガイドライン作成委員会との協働になると思われます）
III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）
4-6回/年のWeb会議を想定しております。

セミナー管理委員会

I. 活動目標

セミナー開催時、学会の教育方針との整合性、他のセミナーとの競合性（時期的）、予算および収支の適正化、多職種のセミナーや各支部会からのセミナーの本会委員会との内容の整合性を確認する。

II. 活動計画

1. 本会委員会企画のセミナーの日程の確認（他のセミナーと競合している場合は、助言する）、予算作成に際しての助言を行う。
2. 支部会企画セミナーの本会各領域教育内容との調整を助言する。
3. セミナー申請フローの周知、マニュアルの整備をおこなす。
4. 委員会以外からの申請セミナーの適切性の審議を行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

セミナー企画委員会

I. 活動目標

リフレッシャーセミナーの企画とJICECリニューアル

II. 活動計画

1. リフレッシャーセミナーの安定的な開催する。
2. JICECの見直しを約20%に行い、新たな項目の追加も行う。
3. 専門医機構の要件である医療安全、倫理、感染のセミナーを関連委員会と調整し検討する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

専門医制度・審査委員会

I. 活動目標

学会認定専門医制度と機構認定専門医制度の並行運用を行う。
機構認定専門医制度運用のブラッシュアップを行い、より良い制度にする。

II. 活動計画

1. 学会認定専門医新規申請者の書類審査/筆記試験合否の判定
2. 学会認定専門医更新申請者の書類審査と合否の判定
3. 学会認定専門医研修施設の更新申請の審査
4. 機構認定専門医新規申請者の書類審査/筆記試験合否の判定
5. 機構認定専門医研修施設の新規申請の審査
6. 機構認定専門医研修施設の更新申請の審査

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

11回

専門医試験委員会

I. 活動目標

専門医の資質に値する知識を確認するうえで必要な試験制度を整えることを目標に、専門医試験問題作成及び解説集の作成を行う。

II. 活動計画

1. 2026年度専門医筆記試験問題作成
年10回の参集型委員会で問題作成と校正・校閲を繰り返し、優良問題を作成する。
2. 試験問題解説集の解説を作成する
試験問題作成と並行して解説を作成し、翌年春の発行を目指す。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

10回

専門医講習審査委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

遅延なく、専門医講習会の審議を行うこと。

II. 活動計画

現状では申請数はそれほど多くはないので、委員長が初めにチェックし、委員会でメール審議を基本とする。今後、申請数が増えれば、初期段階のチェックも構成委員に振り分けることも考慮している。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

専門研修の制度の変更などがあれば、開催する可能性はあるが、現状では開催の予定はない。申請ごとにメール審議を開催することになるため、予定の開催回数は不明である。

学会指導医認定制度委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

2026年10月から募集し、2027年4月1日認定開始を目指す。

II. 活動計画

1. ホームページ作成
2. 制度の周知
3. 募集の準備
4. 認定証のフォーマット作成

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

超音波画像診断認定制度委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

1. 認定試験を行う（CBT様式：株式会社CBTソリューションズ）
2. 試験合格判定を行い、合格者に認定証を授与する
3. 周知活動をかねて、ピンバッチを作成し認定者におくる。
4. インストラクター養成セミナーの実施

II. 活動計画

1. 認定試験作成WGにて、試験問題を作成して、委員会で選定する。
2. 認定試験を行う（CBT様式：株式会社CBTソリューションズ）
4. 実技指南ウェビナーの実施（7回）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

5回

学会認証看護師制度委員会

I. 活動目標

集中治療認証看護師制度の第5回試験の適切な運営が行われる。
集中治療認証看護師認証試験の受験者数の安定的な確保がなされる。
更新制度に関わる適切な運営が行われる。
教育システムの見直しによる集中治療認証看護師制度の改善が行われる。

II. 活動計画

- 2026年度4月 集中治療認証看護師試験の公募案内の検討
安定的な受験者確保に向けた広報活動の実施
- 2026年度4-9月 集中治療認証看護師試験の試験問題の作問（不適切問題を減らすためのシステムの見直しおよび実施を含む）
- 2026年度4-10月 第5回集中治療認証看護師試験の適切な運営に向けた検討
・実施フローの明確化、当日運営チェックリストの作成、当日運営方法の再検討等
第1回集中治療認証看護師更新申請に向けた検討
- 2026年度11月 第5回集中治療認証看護師試験
第1回集中治療認証看護師更新申請受付開始
- 2026年度12月 次年度に向けた教育システム（セミナー含む）の見直し
- 2027年度1-2月 集中治療認証看護師(ICRN)または集中治療認証看護師－知識認証(ICRN-K)の認証（適否の理事長への報告、認証書発行など）
集中治療認証看護師更新者の認証（適否の理事長への報告、認証書発行など）
- 2027年度1-3月 次年度 試験準備(ポスター作成および配布等含む)
- 随時：学会および支部会等の研修主催者より、本委員会へ提出された更新のための研修ポイントの認定作業
- 次年度にむけた試験のあり方を他の認定制度の委員会と連携して検討を行う（CBT等より効率的な試験運営案の検討）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

Web会議10回、メール審議10回程度を予定、別途試験問題作問WG 3回、試験監督1回

専門臨床工学技士制度委員会

I. 活動目標

専門臨床工学技士の認定を継続して行う。被認定者の増加を図る。

II. 活動計画

1. 認定申請の受付と書類審査
2. 認定試験問題の作成および試験の実施
3. 認定審査および合額発表、認定証の交付

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

集中治療専門臨床工学技士試験委員会

I. 活動目標

専門臨床工学技士認定試験問題の作成と適正実施（不適切問題の回避、適切な難易度）
新テキスト発行に伴う新たな試験範囲の設定と作問担当割の実施

II. 活動計画

1. 新テキストの精査と試験範囲の設定、作問担当者設定
2. 試験問題の作成、ブラッシュアップ
3. 試験の実施
4. 不適切問題、合否判定基準の検討

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

8回

集中治療理学療法士制度委員会

I. 活動目標

集中治療理学療法士認定試験の試験問題を作成する。
第4回集中治療理学療法士認定試験を実施する。
集中治療理学療法士の第4回認定を行う。
集中治療理学療法士認定研修施設の検討を開始する。

II. 活動計画

集中治療理学療法士認定試験問題第1回締め切り（4月10日）
集中治療理学療法士認定試験問題第2回締め切り（5月1日）
集中治療理学療法士認定試験問題確認（5月15日）
集中治療理学療法士認定試験（10月17日）
集中治療理学療法士認定研修施設検討会議 2回（web）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

集中治療専門薬剤師制度委員会

I. 活動目標

集中治療専門薬剤師制度の適正かつ、円滑な運用を図る。
集中治療専門薬剤師制度規則および施行細則の運用を管理し、運用にあたって生じた疑義を処理するとともに、集中治療専門薬剤師の認定、更新、および登録に関する業務を担当する。

II. 活動計画

- ・集中治療専門薬剤師申請者が提出した申請書類の審査を行う。
- ・申請要件を満たすと認められる申請者を対象に試験を実施する。
- ・集中治療専門薬剤師申請者に対して申請書類の審査および試験結果に基づいて適否を決定し、その試験結果を理事長に報告する。
- ・試験問題作成ワーキンググループは筆記試験問題を作成する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

集中治療看護委員会

I. 活動目標

1. 学会のビジョンに沿った看護師の活動計画と実行に向けた調整を図る。
2. 支部会との情報共有および必要な連携を図り、支部学術活動を適正に支援する。
3. 集中治療看護に関連する調査および研究を企画し実施する。
4. 集中治療看護に関する施設調査を実施し、日本における集中治療看護の実態と課題を把握する。
5. 日本における集中治療看護の実態と課題を踏まえ、質評価の標準化に向けた方向性を検討する。
6. 看護師が関与する各種委員会と情報を共有し、必要に応じて相談に対応する。
7. 必要に応じて会員からの意見を収集し、委員会活動に反映させる。
8. 診療報酬改定に係る看護関連の内容を検討する。
9. 看護師のeAPRIN受講を促進する取り組みを検討する。
10. 日本の集中治療看護全体の実践状況を把握するための基盤整備を進める。

II. 活動計画

1. 学会のビジョンに沿った看護師活動の方向性を討議する。
2. 支部会代表者と必要に応じて情報交換を図り、本会の方針、セミナー開催フロー、申請時の留意点を共有する。
3. 集中治療看護に関する研究の優先度に関する研究、HWEに関する研究、特定行為看護師の実施状況に関する研究を実施し、その成果を公表する。
4. 学会認定集中治療施設を対象に、集中治療看護に関する別途調査を実施し、HPや学術集会等で公表する。
5. 集中治療看護の質評価の標準化に向けて、QI、アウトカム指標、プロセス指標の候補を整理する。
6. 看護師が関与する各種委員会との情報共有および相談対応を継続する。
7. 必要に応じて会員の意見を把握し、委員会活動へ反映する。
8. 診療報酬改定に向けた看護関連の内容を検討し、案を提出する。
9. 看護師のeAPRIN受講率を向上させる取り組みを検討し、実施する。
10. 集中治療看護全体の実践状況を把握するため、HCU等を含む実態把握の対象、調査項目、調査方法について検討する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

全体会議4回、各担当班会議は適宜

看護教育委員会

I. 活動目標

1. 学会における看護教育活動の方向性を定めること
2. 集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを踏まえた教育を提供すること
3. 教育的手法を用いて、集中治療における看護の質を向上させること

II. 活動計画

1. 学会における看護教育の活動の方向性に関して討議する。
看護協会や関連学会の動向、集中治療領域の問題や課題について会議にて検討する。
2. 集中治療に携わる看護師に必要なコンピテンシーを育成するための教育内容の検討(セミナー内容へ反映)
3. 多職種を対象とした、下記の(web)セミナーを開催する。(開催時期は講師との調整にて変更あり)
 - ① ICUセミナー(初級)2回(6月、10月)
 - ② ICUセミナー(中級)2回(9月、12月)
 - ③ 意思決定支援プロセスセミナー ベーシック2回(6月、10月)、アドバンス1回(11月)
 - ④ 医療安全セミナー1回(8月)
 - ⑤ 重症患者の睡眠に関わるセミナー(6月)

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

5回

集中治療臨床工学委員会

I. 活動目標

- ・集中治療CEセミナーを開催する。
- ・業務実態調査を実施する。

II. 活動計画

- ・VA-ECMOの使用における臨床工学技士の業務内容について実態調査を行い、学会誌への投稿を行いエビデンスを構築する。
- ・ベーシック編とアドバンス編それぞれ1回ずつ実施する。
- ・業務実態調査を行い、継続的なデータ集積を行っていく。

III. 会議開催数(Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)

20回程度

集中治療薬剤委員会

I. 活動目標

1. 集中治療薬剤師の質的向上
(1) 集中治療薬剤師の質的評価の検討
2. 教育活動
(1) 集中治療薬剤セミナー：年1回のセミナーを開催する。
(2) 学術集会：集中治療薬剤委員会からの教育講演、シンポジウム、パネルディスカッション等を企画し、提案する。
3. 専門育成：集中治療専門薬剤師制度の運営を集中治療専門薬剤師制度委員会と協同し、広報していく。

II. 活動計画

1. 集中治療専門薬剤師制度の周知
集中治療専門薬剤師制度を集中治療専門薬剤師制度委員会と協同し、より多くの薬剤師に専門薬剤師制度を知ってもらうために広報活動を行う。
2. 集中治療における薬剤師の質の向上
 - ・集中治療室の薬剤師の質を評価するために、Quality Indicator: QIを議論し、集中治療薬剤師の質的評価を行うために、アンケート調査を行う。
 - ・集中治療室における薬剤師活動の医師からのニーズ調査:国内横断研究（集中治療薬剤委員会承認研究として実施）
3. 集中治療における薬剤の適正管理に関する教育
集中治療薬剤セミナーを年1回として企画し、運営する。集中治療薬剤セミナーを開催し、日本集中治療医学会からの薬剤の安全管理を考える機会を提供する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回 (web)

集中治療PT・OT・ST委員会

I. 活動目標

1. 集中治療期リハビリテーション職種の質の向上を図る
2. 作業療法士、言語聴覚士に対する集中治療期リハビリテーションの認知度の向上
3. 集中治療に携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員数維持・増加を図る

II. 活動計画

1. 集中治療に携わる作業療法士のミニマムスタンダードの完成・公表
2. 作業療法士・言語聴覚士向けの集中治療リハビリテーション初学者向けセミナーの開催
3. リハビリテーション職種向けの集中治療リハビリテーションエキスパート向けセミナーの開催
4. これらを踏まえ集中治療に携わる理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の会員数維持・増加を図る

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回(他に職種ごとで臨時会議を開催予定)

集中治療リハビリテーション委員会

I. 活動目標

ガイドライン委員会と連携してガイドラインの啓発・普及、リハビリに関わるチーム医療の推進、早期離床リハビリの普及と啓発に向けたセミナーやハンズオンなどを行う。

ガイドラインの普及状況、認知度の調査する。

II. 活動計画

リハビリーションガイドラインに基づいたセミナーを2回開催する。

対面型のハンズオンを含めた知識と技術の向上を目的としたセミナー

オンデマンド配信による知識向上、最新情報の共有を目的としたセミナー

ガイドラインの普及状況、認知度について、アンケート調査を実施。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

循環器集中治療委員会

I. 活動目標

- ・日本循環器学会をはじめとする関連学会との連携強化を通じて、循環器集中治療領域の教育体制を充実させる。
- ・若手医師の日本集中治療医学会への入会促進を図り、会員数の増加を目指す。
- ・PCAS/ECPRセミナーの質的向上を推進する。
- ・学術集会における多職種参加型教育プログラムを拡充する。
- ・心臓血管外科領域にも精通するメンバーを追加することで委員会組織基盤を強化し、わが国における循環器集中治療の標準化と発展に寄与する。
- ・書籍出版から得たデジタルコンテンツの活用による知識普及を推進する。
- ・ホームページでの施設紹介制度を拡充する。
- ・循環器集中治療の社会的認知度向上と医療の質向上に貢献する。

II. 活動計画

・第11・12回PCAS・ECPRセミナー（7月、国立循環器病研究センター予定）および第13・14回PCAS・ECPRセミナー（10月、東北大学予定）を開催し、蘇生ガイドライン改訂に対応した体温管理ディスカッションを新規導入して教育内容を充実させる。

・第91回日本循環器学会学術集会への企画参画、心原性ショックセミナーの継続開催、他学会との連携を強化する。

・『All in one！循環器救急・集中治療』書籍コンテンツのSNS・HP活用を推進する。

・2026年度の新規委員選定、タスクフォース設置、多職種委員の増員検討により、組織基盤を強化する。

・循環器系集中治療部設置指針の改訂、CCUエキスパート・コンセンサス作成支援、RRS検討委員会との共同企画を通じて、診療標準化を推進する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

小児集中治療委員会

I. 活動目標

2025年度の活動を継承し、小児集中治療にかかる諸問題について検討し、わが国の小児集中治療領域の臨床・教育・研究の向上に寄与する。日本小児集中治療連絡協議会（Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC）の活動をより活性化して、日本小児科学会、日本小児救急医学会、日本小児麻酔学会・小児循環器学会小児循環器集中治療研究会・小児集中治療研究会等との連携を深める。集中治療専門医の基本領域となる日本小児科学会との集中治療にかかる合同委員会を継承し、わが国の小児集中治療にかかる活動を一本化してゆくことを、引き続き今後の中心的課題としていきたい。また、重症小児のための医療提供体制や診療報酬のあり方について検討し、発信することも最重要課題の一つとし、搬送ワーキンググループはその一翼を担う活動を目標とする。また、小児重症急性呼吸器感染症（pediatric Severe Acute Respiratory Infection; pSARI）サーベイランスのシステム構築と拡充も重点課題としたい。さらに、看護師はじめ多職種関連の検討事項も活性化させてゆく方針である。

II. 活動計画

1. 日本小児集中治療連絡協議会（Japanese Association of Paediatric Intensive Care; JAPIC）

- ・災害支援作業班、新興再興感染症作業班、診療報酬作業班の活動を継続する。
- ・PICU施設調査はじめ各種情報収集を実施する。
- ・基本的にはメール・ウェブ会議等で完結する方向であるが、活発な議論を促すために対面での会議も検討する。
- ・年報を発行する。
- ・JIPAD加入促進。
- ・国際多施設共同研究にかかる情報共有強化と参加強化。
- ・集中治療医学会関連他委員会とも積極的に情報共有を行う。

2. 当学会以外での小児集中治療関連活動との連携

- ・日本小児麻酔学会、小児循環器学会小児循環器集中治療研究会、小児集中治療研究会との連携を進める。
- ・日本小児科学会との連携をさらに強化する。日本小児科学会小児救急・集中治療委員会をカウンターパートとした当委員会との合同委員会は専門医制度の側面からも非常に重要であり、年2回開催を継続する。

3. 小児重症呼吸器感染症（pediatric SARI）

- ・社会状況を注視しつつ柔軟に本活動を継続する。JAPIC以外の重症小児の把握が課題であり、小児科学会との連携や、成人と小児の混合ICUに入室した小児症例の把握など、解決に向けて引き続き取り組む。

4. 搬送ワーキンググループ

- ・最終目標：集中治療を必要とする重症小児が、小児専門搬送チームによる搬送により然るべき施設で最善の治療が受けられるように、全国的な搬送システムを構築すること。

5. 各種調査・他

職域背景調査、小児集中治療領域にかかる看護関連研究にかかる議論を継続する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

神経集中治療委員会

I. 活動目標

疾患横断的に集中治療を担当するすべての医療職が、常に重症の脳・神経疾患に対する治療と「二次性脳障害の防止」について考え、実践できる環境を整え、普及・啓発していく。

II. 活動計画

- 1、委員会の開催、2、ガイドライン、
- 3、RCT、4、ハンズオンセミナー、
- 5、ホームページ、6、長期予後registry、7、敗血症関連脳障害研究を検討する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

感染管理委員会

I. 活動目標

感染管理に関する教育・啓発活動の仕組みを構築し、集中治療における感染管理、抗菌薬適正使用、感染管理サーベイランス、および管理ネットワークを強化する。

II. 活動計画

1. WHO手指衛生キャンペーンの参加：2018年から継続参加しているWHOグローバルキャンペーン。他学会・組織と共同で日本語訳ポスターを作成し、これまでと同様に学会評議員に対して完成したポスターを印刷して配布する。日本集中治療医学会として、集中治療室における多職種の手指衛生管理への教育に参画する。
2. 集中治療スタッフのための感染対策セミナーの実施：ICUにおける感染予防や感染症診療の教育と情報共有を目的として、「集中治療スタッフのための感染対策セミナー」の実施を継続する。委員会メンバー、学会員を中心とした専門家によるレクチャーおよびケースディスカッションにより、最新の知見を共有する。テーマはホットトピックを中心として、医師だけでなく看護師や薬剤師などの多職種連携を目標とした内容とし、集中治療従事者における感染管理の理解を深める。
3. Train the Trainers (TTT) ～WHO 手指衛生多角的戦略に基づく手指衛生指導者育成セミナー～の実施：本セミナーは、手指衛生の感染管理指導者を対象として、2020年より日本環境感染学会等との連携として開始された。集中治療領域の感染管理の教育指導にあたる人材育成を目的とし、世界保健機関の指導下での連携となる。日本環境感染学会との分担協賛金として、25万円の半額を折半して運営される。
4. ICD講習会の企画と運営：日本集中治療医学会として、学術集会におけるInfection Control Doctor (ICD) 講習会の企画と運営を行う。日本集中治療医学会に所属するICD資格取得、また資格継続の単位取得のための支援とする。
5. ICU領域の感染管理・抗菌薬適正使用関連のネットワーク強化：全国のICUにおける医療関連感染症の発生率や抗菌薬の使用状況などの感染予防管理を高めることを目的として、集中治療領域の感染症サーベイランス事業との連携、JIPADの利活用などのサーベイランス事業を仕組み化する。
6. 学会関連研究：ICUにおける抗菌薬使用料調査など、日本集中治療医学会にとって意義の深い感染管理の研究の情報収集にあたり、日本集中治療医学会および理事会、および会員の皆さまへの情報発信とする。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

4回

周産期集中治療委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

本会が関与すべき周産期の病態・疾患に関して、搬送、治療、医療機器、看護における指針および教育目標を策定し、周産期集中治療ガイドブックとして刊行する。

II. 活動計画

4月：メール会議で、再校を確認する。

5月：WEB会議で、ガイドブックの委員会案（第三校）を確定させ、理事会に上申し、パブリックコメントを募集する。

7月：最終稿を理事会に上申する。

9月：ガイドブックを刊行する。WEB会議で、以後の委員会活動について、解散を含めて審議する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

プラットフォーム研究検討委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

心停止後症候群に対して複数のランダム化比較試験を並行して検討するプラットフォームを用いた臨床研究体制を整備する。

II. 活動計画

○プラットフォームの基盤構築

- ・ コアプロトコルの作成
- ・ 各ドメイン（個々のRCT）の調整
- ・ アンケート調査を実施
- ・ 研究実施のための実務/解析業務の調整
- ・ EDC作成
- ・ 症例登録開始

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

web会議で委員会ワーキンググループ合同会議を月に2回程度開催する。

ダイバーシティ委員会（Ad Hoc）

I. 活動目標

日本集中治療医学会の会員のダイバーシティを反映した学会の制度設計を行うとともに、日常の業務・職場環境でのダイバーシティ実現を阻んでいる問題点の解決も目指した活動を行う。

会員のダイバーシティの反映とは、男女共同参画、若手の登用、多職種の参画、地域の多様性の反映、子育て・介護など人生のさまざまなフェーズでも継続可能な環境・制度、が実現されていることである。

2026年度は2025年度までの活動目標および計画を継続しながら、学術集会への子連れ参加をさらに充実したシステムにするための課題の洗い出しと対策、学生・研修医への集中治療医学の教育に関する調査やセミナー、ダイバーシティの実現に向けての様々なデータの収集および公表など、積み残している課題に取り組んでいく。

II. 活動計画

- ・ダイバーシティ実現へ向けての現状や希望に関するアンケート結果の論文化
- ・学術集会における託児サービスに関する各学会の現状に関するアンケート結果の論文化
- ・ダイバーシティ委員会・HPのさらなる充実、として、2029年のWCICC開催に向けて、HPをデザイナーに依頼して「世界に見られるHP」づくりを目指すことを計画している。
- ・学術集会での企画立案・運営
- ・若手集中治療医を増やすための学生や研修医へのセミナー、学生や研修医へのキャリアプランセミナー
- ・学生や研修医への集中治療医学の教育に関する調査
- ・学会におけるダイバーシティの現状のデータ収集とHPでの公表
- ・年次学術集会および支部学術集会における座長や特別セッション演者の男女比率、多職種登用、年齢分布、プログラム委員会メンバーの年齢分布などのデータ収集とHPでの公表
- ・学術集会への子連れ参加実施に伴う問題点の洗い出しと対策
- ・本委員会の制度設計の指針等の明示

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

6回

U35プロジェクト運営委員会

I. 活動目標

これまで行ってきた学術集会総会での企画や他学会へのブース出展に加え、学術集会支部会でも積極的に活動し、より多くのU35メンバーが活動できるような機会を作る。また、学術集会内外での他の学会とのコラボレーション企画も進めていく。これらの活動にU35メンバーが学術集会に参加しやすい体制を整える。

II. 活動計画

- ・ 第54回学術集会や地方会でのU35企画の立案・運営
- ・ KSCCM、ESICMとのコラボレーション企画（ESICM JAMBOREEを含む）
- ・ U35主体のセミナー企画
- ・ 他学会へのブース出展
- ・ 全体会議での多職種Webinarの企画、他学会とのWebinar企画
- ・ 学術集会におけるU35活動に対する委任状の作成

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

- ・ 毎月第2水曜日に全体Web会議、第4水曜日に委員Web会議（年24回）

集中治療医学部教育委員会

I. 活動目標

医学部教育において集中治療の概念を普及させるため、コアカリキュラムと連動した集中治療教育モデルを確立する。

II. 活動計画

- ・ 全国の大学病院での集中治療教育の実際をアンケート（全医学部・看護学部を実施）
- ・ 学術集会においてシンポジウムを行い、実践可能な集中治療教育を可視化していく。
- ・ 医学教育普及に向け、他学会との連携
- ・ 集中治療若手医師との座談会（U35合同企画）

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

Web会議を3ヶ月ごとに

臨床研究委員会

I. 活動目標

- ・研究助成金制度の公募・審査を行い、日本からの集中治療領域のエビデンスの創出を支援する。
- ・多施設研究支援の応募研究の審査を行い、多施設研究の支援を行う。

II. 活動計画

- ・研究助成金制度の公募・審査
→公募要項などの準備はWeb会議、審査は対面会議と事前メール会議で行う。
- ・多施設研究支援の応募研究の審査
→学会員個人からの申請は応募があり次第、迅速にメール会議を開催する。
→他委員会あるいは他学会からの申請は臨床研究委員会ワーキンググループで事前審査を行い、その結果を元にメール会議で審査する。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

研究倫理委員会

I. 活動目標

研究倫理の啓発・普及などの教育活動を行う。
会員の研究活動の不正の疑義が生じた場合に審査を行う。

II. 活動計画

1. 学術集会における発表および研究に関する不正疑義の事案を調査し、レポートを作成する。会員の今後の研究倫理の参考となるようにデータを集積する。
2. 学術集会発表におけるeAPRIN JSICMコース受講必須化に対応し、受講の促進を図る。
3. 研究倫理に関するアナウンス、適宜、研究倫理に関するよくある質問（FAQ）の改訂を行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

2回

英文機関誌編集委員会

I. 活動目標

国内外の編集委員体制を強化したうえで、論文投稿のグローバル化を図り、アジアを拠点とする集中治療国際誌として、より一層の影響度の向上を図る。

II. 活動計画

1. 編集体制強化

迅速かつ的確な査読は質の高い論文掲載には必須であり、国内外の編集委員体制を強化してJournal of Intensive Careの影響度の増強を図る。

2. Reviewer of the year表彰

質の高い論文掲載に必須な「的確な査読」を頂いた会員に敬意を表し、表彰する。

3. Highly cited article表彰

Journal of Intensive CareのJournal Impact Factor向上に貢献した論文を投稿した会員に敬意を表し、表彰する。

4. Journal of Intensive Care賞およびJournal of Intensive Care奨励賞の推薦

会員の本機関誌への論文投稿を一層高めるため、優れた論文を優秀論文選考委員会に推薦する。

5. 世界への広報

Social Mediaの活用など様々な手段を通じ、世界の集中治療領域の医療者研究者へのJournal of Intensive Careの認知度を高める。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

3回

機関誌編集・用語委員会

I. 活動目標

1. 的確でスピーディーな編集作業を行う。

2. 学会員へ有益な機関誌を提供する。

3. 用語集の改訂を実施する。

4. 2027年9月末日までに、全評議員へ査読依頼ができるよう編集作業を行う。

II. 活動計画

1. オンライン和文機関誌の都度発行

2. 機関紙編集・用語委員会（定例年4回・臨時随時）の開催 ※すべてWeb開催

3. 日本集中治療医学会雑誌賞の推薦

4. Reviewer of the yearの表彰

5. 用語集の改訂、ウェブ化

6. 学術集会時の優秀演題投稿依頼

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

WEB会議 年4回

優秀論文賞選考委員会

I. 活動目標

1. 応募論文（優秀論文賞、奨励賞、日本集中治療医学会雑誌賞・奨励賞、Journal of Intensive Care賞・奨励賞）を厳密かつ慎重に審査し、6論文を委員会として理事会に推薦する。
2. 優秀論文賞、日本集中治療医学会雑誌賞、Journal of Intensive Care賞の中から最も優秀な臨床分野の研究論文を平澤博之記念賞（最優秀論文賞）を委員会として理事会に推薦する。

II. 活動計画

1. 優秀論文賞の推薦
2. 奨励賞の推薦
3. 日本集中治療医学会雑誌賞・日本集中治療医学会雑誌奨励賞の推薦
4. Journal of Intensive Care賞・Journal of Intensive Care 奨励賞の推薦
5. 平澤博之記念賞（最優秀論文賞）の推薦
6. 必要に応じて内規や申し合わせを改訂する

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

1回

神経集中治療診療ガイドライン作成委員会 (Ad Hoc)

I. 活動目標
神経集中治療診療ガイドライン2024を公開する。
II. 活動計画
神経集中治療診療ガイドライン2024を公開する。
III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)
1回

ARDS診療ガイドライン作成統括委員会 (Ad Hoc/日本呼吸器学会、日本呼吸療法医学会、日本集中治療医学会 合同)

I. 活動目標
1) ガイドライン本文・英語版発行 (～2026年6月)
II. 活動計画
<ul style="list-style-type: none">・ ガイドライン本文 (日本語・英語) を執筆する。・ パブリックコメント・外部評価を募集し対応する。・ 2026年6月発行を目指す。
III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)
委員会打合せ (web) 1～3回

重症患者リハビリテーション診療ガイドライン委員会 (Ad Hoc)

I. 活動目標
診療ガイドライン本文を完成させ、外部評価依頼を行う。
II. 活動計画
<ul style="list-style-type: none">・ WGメンバーが実施したSRをもとに委員によりEtDを作成する。・ 委員投票を行い推奨を確定する。・ 委員により本文を作成し、相互査読ののち投票を行い本文を確定する。・ 外部評価委員に評価を依頼する。
III. 会議開催数 (Web会議、実際の参集会議を合わせた回数)
5回

日本版敗血症診療ガイドライン2028特別委員会（Ad Hoc/日本集中治療医学会・日本救急医学会合同）

I. 活動目標

関連企業と連携して、AI補助によるガイドライン作成（リビングガイドライン）の方法を模索する。

II. 活動計画

日本版敗血症診療ガイドラインにおけるAI活用のための技術提供企業の募集を行い、候補企業との具体的な打ち合わせを行う。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

15回

敗血症広報WG

I. 活動目標

本ワーキンググループ（WG）のミッションは、敗血症に関する正確かつ実践的な情報を一般開業医および医療従事者に広く発信し、診療の標準化と患者アウトカムの向上に貢献することである。

このミッションのもと、今年度の活動目標として、第一に、他学会や関連団体と連携したシンポジウムやワークショップを通じ、日本版敗血症診療ガイドラインの普及を推進する。第二に、JaSAによるWebセミナーを継続的に実施し、日本救急医学会および日本感染症学会との連携のもと、合同委員会を通じた学術的発信を強化することで、学際的連携と教育基盤の強化を図る。

II. 活動計画

本ワーキンググループ（WG）のミッションは、敗血症に関する正確かつ実践的な情報を一般開業医および医療従事者に広く発信し、診療の標準化と患者アウトカムの向上に貢献することである。

このミッションのもと、今年度の活動目標として、第一に、他学会や関連団体と連携したシンポジウムやワークショップを通じ、日本版敗血症診療ガイドラインの普及を推進する。第二に、JaSAによるWebセミナーを継続的に実施し、日本救急医学会および日本感染症学会との連携のもと、合同委員会を通じた学術的発信を強化することで、学際的連携と教育基盤の強化を図る。

III. 会議開催数（Web会議、実際の参集会議を合わせた回数）

日本集中治療医学会委員のみの会議：年2回

3学会合同会議：年1回